美術館コレクションにみる栃尾

Tochio seen on an art museum collection

「森立峠から見た守門山」

椿 悦至（1914～2003）1993年
油彩・キャンバス／65cm×80cm

豊かな自然の恵みをもたらす守門岳は、栃尾の風景に欠かせない美しい名峰です。少年時代を栃尾で過ごした椿悦至（つばき・えつし）は故郷を思わせるみずみずしい色彩の風景画をよく描き、晩年は太平洋美術会長として活躍しました。「森立峠から見た守門山」は柔らかな春の陽光に包まれた、栃尾らしい雪解けの風景です。

「源流（新山）」

2000年／油彩・キャンバス
53cm×73cm

同じく椿悦至の作品で、西谷川の上流、新山（あらやま）の一角で描いたものです。栃尾地域は水源となる豊かな森林の山々に囲まれており、刈谷田川、西谷川、塩谷川の三本の大きな川が流れています。この豊富な水は古くから農業や産業に活かされてきました。守門岳から流れる刈谷田川の上流には現在でも蛍やカジカガエルが生息しています。

栃尾から守門岳への登山ルートのひとつ「入塩川コース」の雨晴（あばらせ）では美しいブナの原生林が広がります。山開きは毎年5月。

「田園浅春」

瀧 澤　徳（1939～）1995年
油彩・キャンバス／132cm×162cm

日展、光風会で活躍する瀧澤徳（たきざわ・のぼる）は栃尾の雪景色を多く描いています。栃尾には美しい水田の風景が数多くありますが、特に山間に作られる棚田のうちの七ケ所が、新潟県が選ぶ「棚田のある風景」に選ばれています。

「杜々の森」

富川潤一（1907～1995）1991年／絹本彩色／24.2cm×27.2cm

栃尾出身の洋画家で日展、光風会展などで活躍した富川潤一（とみかわ・じゅんいち）は日本画の研究のため京都に移住した経験を持ち、晩年は新潟市に定住、「市場・浜焼き」シリーズを中心とする新潟の風景を多く描きました。「杜々の森」は水汲み場を描いた作品ですが、現在の様子（写真右）を比べると、当時とほぼ同じ景観が保たれていることがわかります。